



鹿沼市内で観察できる野鳥

木々の葉が落ち、これからは小枝に止まる野鳥を観察するのに良い季節です。

ジョウビタキ

雄は胸のオレンジ色がよく目立つ、雌は瞳が可愛すぎる。人をあまり恐れない、家の庭先までやってきて餌を探してる。



ツグミ

昔は大量に霞網で捕らえられ食料にされた、今は禁猟。公園や開けた林などで地面に下りて虫などを食べている。甘い物が大好きで、庭の柿の木に来ることもある。



オオマシコ

雪の中の可愛いピンク色の姿は忘れられない。古峰ヶ原や横根山などで生活する。真冬の雪になっても平地には下りてこない。



ヒレンジャク

尾羽の先が赤いのはヒレンジャク、黄色いのはキレンジャク。古峰ヶ原や横根山などで生活する、真冬の雪になっても平地には下りてこない。



ベニマシコ

冬の枯れ野に餌を探すベニマシコの紅色は目立ちすぎ。河原や公園、林のしげみなどでよく見られます。



カシラダカ

頭の羽が立っている、今はやりの髪型かな。河原や公園、林のしげみなど、どこでも見られます。

写真・解説：鹿沼自然観察会

！イベント情報！

12月

- 12月14日(日) 9:30～
- リサイクルセンター 駐車場
- 「フリーマーケット」
- 65-6677
- ぶうめらん
- 12月21日(日) 10:00～
- リサイクルセンター 工房
- 親子エコ教室
- お茶の葉の缶を使った「ミニ門松作り」
- 65-6677
- ぶうめらん

1月

- 1月下旬
- リサイクルセンター 研修室
- リサイクル手作り教室
- 65-6677
- ぶうめらん

2月

- 2月7日(土) 13:30～
- 市民文化センター
- 北野 大氏による「環境講演会」
- 65-1064
- 市環境課
- 2月21日(土) 9:30～
- 文化活動交流館
- ウイークエンド体験
- ペットボトルを再利用した「フラワーアレンジメント」
- 63-3498
- 市生涯学習課

イベント・講座の情報を募集しています。平成27年3月～実施分



発行・編集：鹿沼市環境部環境課、鹿沼市環境活動推進会議

〒322-0045 鹿沼市上殿町695-7(環境クリーンセンター)

☎ 0289(64)3194 / FAX 0289(65)5766 / Eメール kankyo@city.kanuma.lg.jp

本紙に関するご意見、ご感想をお寄せください。

この情報紙は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて発行しています。





シリーズ エコライフのすすめ

3 太陽光発電のすすめ

太陽光発電は、今やもっともポピュラーな自家発電設備となりました。風力や水力など、ほかの発電設備に比べて設置が容易なほか、二酸化炭素を出さないクリーンな発電方法の一つとして、地球温暖化防止にも貢献できます。

メリットは…

1. 日中は太陽光を浴びて発電し、家庭の電力を賄い、使い切れなかった電力は電力会社に売電することも可能です。
2. 設置者へのアンケートでは、「月々の電気料金がかなり安くなった」「家庭の省エネを意識するようになった」など、よかったという意見が多く見られます。

この機会に、太陽光発電を検討してみたいかがでしょうか。

地球にやさしいエネルギー！

太陽光発電などの設置を支援します！

環境課総務係 ☎(64)3194

市内の住宅に新エネルギー設備を設置する方に、補助金を交付しています。これから設置を考えている方、ぜひご活用ください。

◎設置工事前に申請が必要です。

【対象となる設備】

- ・太陽光発電
- ・風力発電
- ・燃料電池（エネファームなど）
- ・ガスコージェネレーション（エコウィルなど）
- ・太陽熱利用設備



【補助額】

- ・発電設備：1kWあたり15,000円（上限60,000円）
- ・太陽熱利用設備：本体価格の10%（上限40,000円）



放射性物質を無料で測定

放射能対策室 ☎(65) 5759

食品等に含まれる放射性物質（ベクレル）を無料で測定します。

お申し込みは、放射能対策室まで。

空間放射線量測定器の貸し出し

放射能対策室 ☎(65) 5759

ご自宅周辺の空間放射線量（シーベルト）を測るための測定器を無料で貸し出しています。測定の結果除染が必要な場合は、個別にご相談に応じます。お申し込みは、地区のコミュニティセンター又は放射能対策室まで。

地域で環境美化活動をする団体や個人のために、20リットルと40リットルのボランティア袋を配付しています。今回40リットルを45リットルに大きさとデザインを一新しました。皆さんも、ボランティア袋を利用して、環境美化活動に取り組みましょう。



市指定ボランティア袋をご活用ください！！

環境課環境保全係 ☎(65) 1064



ごみの減量にご協力ください！

生ごみ処理機等設置費補助金

環境課総務係 ☎(64)3194

生ごみ処理機等の活用で、生ごみを堆肥化し花壇や菜園等での有効利用やごみの減量を目的に交付しています。

◎補助を希望する方は、購入前に環境課へ電話でお申込みください。

シリーズ エコライフのすすめ

4 生ごみ処理機のすすめ

生ごみを各ご家庭で処理して再利用することで、少しでも地球のためになることをしてみませんか？

生ごみ処理機は、微生物や電気ですごみを分解や乾燥するものです。

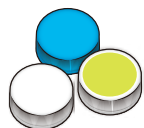
メリットは…

- 1.今まで焼やしていた「生ごみ」が、有機肥料として再利用でき「資源」となります。
- 2.毎日生ごみが処理できるので、収集日まで溜めないで済みます。
- 3.水分を含んで重くなった生ごみを出さずに済むので、ごみを出す時の重さが軽くなります。
- 4.ごみを燃やす量が減るので、環境への負荷が減ります。

あなたのご家庭でも使ってみてはいかがでしょうか。



(1) コンポスト容器	(2) 生ごみ処理機
購入費の2分の1 (100円未満切り捨て) を補助	
上限 6,000円	上限 50,000円
1世帯2個まで	1世帯1台まで



平成26年10月までに
22,487kgを回収

||

ポリオワクチン
11,245人分



市役所、コミュニティセンター、小学校などで、ペットボトルキャップを回収しています。回収されたキャップは、資源化業者に売却され、その売上金によってNPO法人を通して世界の子どもたちにワクチンが届けられます。皆さんのご協力をお願いします。

ペットボトルキャップで

世界の子どもにワクチンを

環境活動推進会議(環境課内)

☎(65) 1064

ごみ処理費は月1億円！

ごみ焼却処理施設の改修その2

清掃課 ☎(64) 3304

鹿沼市のごみの処理には、月に約1億円の経費がかかります。市の人口は約10万人ですから、一人当たり月1千円、年間1万2千円の経費がかかっている計算です。

来々年4月から焼却炉を一部停止しての工事に入ると、市で処理できない分のごみを他市町村や民間業者に処理委託するため、さらに一人当たり年間3千円程度の経費がかかります。

市の予算とはいえ、その多くは税金でまかなわれるのですから、余分な出費は避けたいもの。

そこでさらなるごみの分別と、減量化にご協力をお願いします。

*次号では具体的な減量の目標とその経済効果を解説します。



環境活動者紹介コーナー

市内で環境の保全や美化などに取り組み団体・企業などを、市民編集員が取材し紹介するコーナーです。

身近な自然を保全しておもてなし

美しい黒川をまもる城山ねっと

下武子町城山地区は、黒川に面し、対岸には川上澄生美術館をはじめとする文化・商業施設が集約された、素晴らしい所です。この恵まれた環境を生活の一部として取り入れ、自分たちの手で守り育てたいと、平成17年7月に会を発足させ、登録者49名が黒川東岸、御成橋から府中橋の間で元気に活動しています。

市内で実施される行事等に来る人たちを、きれいな環境でもてなせるよう、さつきマラソン、さつき祭り・花火大会、秋祭り等の開催前の草刈り・草取り・ごみ拾い・花の手入れを行っています。河川から侵入する葛(くず)のツルも後退し、季節の花のきれいな色が楽しめます。

顧問の佐藤さんは、地域の清掃・

美化活動が市内全域に展開すれば、街中からごみが無くなり、通学路・散歩道を楽しく気持ちよく歩け、おもてなしの環境が整うと話します。

現状の課題は、会員が少々高齢化しており、機器操作等のできる若手会員の参画を願ひ募っているとのこと。

ボランティアに、みなさんも参加してみませんか？



メンバーによる地域の美化活動

ごみ減量・リサイクルの先駆者

特定非営利活動法人 ふうめらん

ふうめらんは、循環型社会形成の促進と環境保全に寄与することを目的として活動しているNPO法人です。任意団体「リサイクル広場ふうめらんの会」の発足に始まり、平成14年1月に設立認証され、リサイクルショップの運営や、フリーマーケット・親子エコ教室開催等を行っています。また、活動拠点である鹿沼市リサイクルセンターの指定管理者として、施設を管理しています。

リサイクルセンター内にあるリサイクルショップは、洋服・食器・おもちゃ・装飾品等の受託販売のお店です。市に粗大ごみとして出された自転車・家具も補修・整備され、リサイクル品として販売しています。

今後も、他市町団体とも協働し地域に根ざした交流の拡大にも取り組みたいとのこと。

「もったいない」精神が活かされた活動であり、リサイクル・リユース等について親子で学び考える場として、多くの人

詳しくはこちらから <http://boomeran.michikusa.jp/>



リピーターもいる親子エコ教室の風景

編集後記

誰もが日常生活を快適な環境のもとで過ごしたいと願っています。一人ひとりが、直面する環境破壊や異常気象等を重大な問題としてとらえ、身近なところからできる実践活動に結び付けていくことが大切だと考えています。【環境活動推進会議編集員：阿久津、上澤、竹ノ内、富久田】

